

Structure Kansai No.21 91.7

『建築構造士』資格認定制度についてのパネルディスカッション開催

平成3年7月5日(金)14:00~17:00
西本町インテス竹中工務店設計部にて、
『建築構造士』資格認定制度(案)について
関西支部主催のパネルディスカッションが開催された。

当日のパネルディスカッションには、
中部支部・中国支部からのゲスト参加も
得、平成3年4月5日(社)日本建築構造
技術者協会 業務・法制委員会にて提案
された『建築構造士』資格認定制度につ
いて(案)の説明を法制委員の浜田・加藤
両氏より受け、その内容について熱い討
議がかわされた。

運営方式ならびに参加者は以下のと
りである。

日時 平成3年7月5日(金)

14:00~17:00

会場 西本町インテス17階

竹中工務店設計部

司会 馬瀬芳知氏(馬瀬構造設計事務
所)

挨拶 久徳敏治氏(関西支部長)

パネラー

浜田 守氏(法制委員会委員長)
加藤光一氏(同 W.G副主査)
能勢善樹氏(関西支部資格認定制度検討特別委員会)
林 保氏
宇藤 功氏

ディスカッション

ゲスト

渡辺誠一氏(中部支部)
本郷智之氏(〃)
鈴木孝明氏(中国支部)
金井三郎氏(〃)

まとめ

能勢善樹氏(関西支部副支部長)

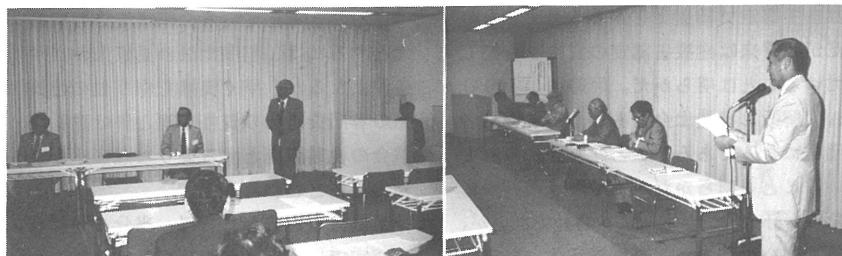
参加者 48名

パネルディスカッションの概要

久徳支部長の挨拶の後、馬瀬氏の司会
により会の進行がなされた。

まず、浜田委員長より『建築構造士』
の制度について、今日に至るまでの経過
報告がなされ、なぜこの制度が必要なの
か、しかもなぜ自主認定にしなければな
らないのか、構造士制度のメリット及び
開始時期等の内容説明がなされた。

続いて、加藤氏より制度要綱について



細部の説明がなされた。

両氏の説明の後、能勢・林・宇藤各氏
より意見が出された。なお三氏には本会
誌に寄稿いただいているので、細部の報
告は避けここでは内容の列記に留める。

- ・制度の意義が不明である。
- ・建築士と構造士の数のバランス。
- ・適用業務が、現在多く建てられている
建物とバランスを失している。
- ・試験内容の再考。
- ・構造士のイメージがハイレベルすぎ
て特殊な人の制度にならないか。

続いて、中部・中国両支部よりこの制
度に対する支部のとらえ方などの現状報
告がなされた。

最後に、浜田・加藤両氏より各意見に
対する補足説明がなされ、今後会員の意
見を聞いて一部内容の修正等も考えて行
く旨の発言をもって、3時間にわたるパ
ネルディスカッションを終了した。

(平野忠人)

建築構造士、資格認定制度について

(株)馬瀬構造設計事務所 馬瀬芳知

標題の件について何か書く様に、との
広報委員会よりの依頼がありました。余
り時間が有りませんでしたので、纏まり
のない話になるかも知れませんが、思
いのままに書かせて頂きます。

たまたま此の問題をテーマにパネルディ
スカッションが平成3年7月5日関西支
部主催で行なわれました。

その時のパネラーの説明なり、参加者
からの質疑などを参考にしながら、私の
意見を述べさせて頂きます。

近年、建築業界はその業務が高度化し
専門化してきている中、現在の建築士法
にもとづく建築士制度に、行詰まりを感じ
ているのは、我々構造家だけでないと思
います。この様な時に、構造士資格認

定制度を創設する事は、諸手を挙げて賛
成です。但し、自主認定制度ではなくて
国家の制度として、建築士法を改正し法
制化したものという条件が付きます。何
故ならば、この制度を押し進めるには構
造家以外の建築士、そして建築の諸団体
の合意を得なければならない問題が多く
あります。これらを無視して自主認定を
独断、先行する事は、彼らの反発を買い、
構造家たたきの好材料に成りはしないか、
と憂えるわけです。そういった意味で國
家の制度として法成化されれば、この様
な問題も自ずと解決されるのではないか
と思います。

ここでもう一度原点にかえり、建築士
法がまだ改正出来ないのはなぜか、そ
の原因はどこにあるのか、よく考えてみ
る必要があるのではないかでしょうか。当
協会が法人化するにあたり「構造家」と
いう名称をどうしても認めて貰えなかつ
たことを忘れてはいけないと思います。
自主認定制度にどれほどメリットが有る
のか私には判りません、なぜそんなに急
がなければならないのか、それも判りま
せん。

この協会の正会員は、総合設計事務所
ゼネコン、及び構造設計事務所の所属に
大別されると思いますが、お互いの立場
をよく理解しながら協会を運営していく
必要があり、この制度の進め方、在り方
もしかりであります。

最後にパネルディスカッションの席で
この制度について、本部だけで話が進み
過ぎる、とか支部を含め一般の会員に事
前の説明がなさ過ぎる、と言った意見も
出て居りましたことを報告しておきます。

尚、この制度の内容に就いては、他の
方が書いておられると思いますので、私
は意見をさし控えます。

建築構造士資格認定制度に関する意見

●パネルディスカッション各パネラーからの意見

株能勢建築構造研究所 能勢善樹

資格認定制度は来年よりの発足とされているが、基本的なところから慎重に検討し、急いで実施すべきではないという立場で述べさせていただく。この制度案は自主認定で構造士を作ろうとするものだが、将来は建設省認定の資格を目指していることは明らかだ。同時に、J S C Aは解散し構造士会ともいべき資格者団体になるであろうことを視野に入れていることも明らかだ。その時点がいつになるか余余曲折がある、容易でないが、時期はいつであれ、資格者団体となる事の意味がもつと論議されてもいいのではないか。建築士の資格同様に内容と遊離した形骸化、設備士の場合の肩すかしの認定という格下げに終らないと誰が保証できよう。構造家懇談会が創られた時の職能論に見られる理想が矮小化された形で固められてしまってはならない。この制度案は現在のJ S C A正会員の中に、構造士と構造士でない者が存在することになるのを予想して作られている。この事は自らが構造士会への変身を決意し、必然的にその方向へ加速させる効果を考えていると思われる。J S C Aはそれこそ自主的に実力を蓄えることが必要であって、自ら進んで急ぐ必要はないと考える。

●会員からの声

株熊谷組 柏木良雄

能勢委員長の「J S C A会員のなかで構造士とそうでない人ができるのは具合が悪い」という意見がありますし、私も「資格ばかり増やしても中身が伴わなければ意味が無い」という疑惑がありますので、一工夫も二工夫もして推進する必要があると思います。

①安易に取れる資格では権威も無く社会的信用も得られない。当面は業務独占（建築士法）とか名称独占（技術士法）も無い自主認定であるから、少し厳しい試験を課して、認定者を乱発しない方が良いのではないか。

②専門化に対応して部門分けを考えてはどうか。c f、鋼構造、コンクリート・P C構造、基礎および土、耐震（免振・制振）設計、特殊構造（大スパン他）、構造計画と設計手法、e t c.

③資格取得者に対しては、毎年1～2回の研修（J S C Aが企画実施）を義務づ

株安井建築設計事務所 林 保

「建築構造士」（以下構造士という）の資格制度の創設は、構造家懇談会発足以来よりの我々の宿願でもあり、昨今の専門技術分化の趨勢の中認知されて然るべきものと考えている。国家資格の構造士とするには、建築士法の見直しが必須条件となるが、早く実績を作り他の建築系の専門資格士の資格問題と併せ建築審議会の検討課題とするような意気込みが是非必要と思われる。

当協会の方向としては、当分の間は自主認定でいくことが決められており、今法制委員会の委員の手により急ピッチで「建築構造士認定制度規則」が作成されつつある。そこでは、①認定構造士の数は何名程度が妥当か、②試験または特別研修の技術レベルをどう設定するかが主な問題点となっている。私の意見としては、①については安易に資格を与えるべきではないと思うが、現会員数の70～80%程度が妥当と考えている。あまり少数精銳主義をとると世間へのPR、貢献度等に申し力不足になると思う。次に②については対象を評価の必要な超高層建物のみとするのではなく、もう少し数の多い評価の必要な建物を対象とした技術レベルに設定すべきだと考えている。

け、有資格者の技術レベルの維持と構造技術の進歩に対応出来るようにする。

④公的認定への対応として、「構造士法」（案）を作成・整備し、制度の目的・内容等を明確にするとともに有資格者の意識の高揚を図る。

株錢高組 三原清敬

7月5日に「建築構造士」の制度について説明会があり、私も出席して聴きました。

平成4年から発足するとの事ですが、関西では未だ初めて聞いたばかりです。この制度が動いていくとなれば、次の様なことを望みたいと思います。

計算尺やそろばんから出発し、体で感じて構造設計をしている人々一自営又は、会社の管理職の人々があります。又若い人でも、構造設計に情熱を燃やしている人々があります。これらの人々を必ず資格者になるよう配慮して頂きたいと思います。それは、建築は建築主の一生一代

株松村組設計部 宇藤 功

建築が複雑、多様化するなかで、建築設計がますます専門分野化するのは時代の趨勢である。このような情況に於いて構造士資格制度が出来ることは理解出来る。さて、その中身であるが適用業務、認定試験の内容から判断してかなりハイレベルな『構造士』をめざしているようであるが、一般の構造設計者が行っている日常業務とはずいぶんかけ離れた感じがする。確かに高度な技術を持って『構造士』は必要であるが、今社会が必要としている『構造士』は、もっと身近かな構造設計の中で、この『構造士資格制度』の意義にも述べられているように、社会のニーズに応え、自然の災害から人命と財産を守りながら優れた建築を実現する責任を果たすことではないかと思う。中小都市の確認業務で扱っている建物でルート①とルート②で85%、ルート③で39%、又階級別でも5階以下が95%という内容から考えて、今のような内容の『構造士』資格制度を作ることが、はたして今必要なのか疑問に思う。日本建築構造技術者協会に所属する『構造士』であれば安心して構造設計をまかせられる制度こそが先決であり、そのことが社会のニーズに応えられるのではないか。



のニーズである故、構造設計者としても、唯計算屋ではないセクト主義でなく、意匠、施工を含めての理解と責任感と愛情を持った心が必要だと思うからです。又、大阪の例の如く、構造法令専門者制度のような確認申請の合理化など行政上の特典や、社会的に認められた安定した報酬が得られる等の大きなメリットとなればこの制度の意義は有ると思います。資格はハイレベルを想定されていますが、試験に際しては、研修講座を開き、そのレベルを周知させて、行って頂きたいと思います。

PC・プレファブ分科会より技術書刊行

J S C A 関西支部編として、P C ・ プレファブ分科会より「はじめての P C ・ P R C (建築技術社)」と題する技術書を発刊しました。J S C A 発足当時の構造懇談会の頃から、技術を通しての会員間の交流と技術研鑽を目的に技術委員会が設けられ、その中の関西支部に組織された P C ・ プレファブ分科会の活動の集大成としてまとめたものです。

技術委員会は当協会の主要な委員会の一つとして鉄骨、R C 、P C ・ プレファブなど 6 つの専門部会が組織され活発な活動が続けられてきました(会員の増加に伴って、平成 3 年度より構造技術全体を系統別に統合整理され再編成されています)。関西支部の中にも技術委員会が組織され、6 つの専門部会に対応して 6 つの分科会活動が進められてきました。

発足当時の 10 年前にさかのぼってみると、その当時にはまだ P R C 構造の設計指針も無く、特殊な設計手法を必要とする P C 構造は一部の構造家にしか浸透していない状態でした。

2 カ月に 1 回の例会もメインテーマも一貫して、「P C 構造の未経験な会員に、

いかにすれば P C 構造の良さを知つてもらえるか」であり、そのために設計資料の蓄積と検討を例会の主な議題としてきました。その後、P R C 構造の設計指針の制定やアンボンド P C 鋼材の開発によるフラットスラブ構造の採用など P C 構造・P R C 構造の実施例が多くみられるようになってきました。途中の 3 年間には大阪大学建築学科鈴木教授にも分科会例会にご参加願い技術上の多くのセッションをいただくなどして、まとめた資料をもとに、5 年前の関西支部会員を対象に定例研究会を持ちました。

今回発刊した本は、この定例研究会の時にまとめた資料をベースにして再編集しなおしたものです。したがって、この本の内容はこの構造にあまり馴染みの無い構造実務者を対象として P C 構造・P R C 構造の合理的な構造設計手法を解説するとともに、設計者として監理するにあたっての注意点や問題点に重点を置いたものになっています。併せて、P C 構造・P R C 構造によって設計された建築の実施例(構造計画例) 32 点を掲載して今後この構造で取り組むときの参考に供

せるように編集されています。

一般の書店で販売されていますので、興味をお持ちの方は購入してください。

なお、この本と、最近 J S C A 鉄骨部会で発行された「やさしい鉄骨の監理」の本を使ったショイント講習会を 12 月に予定しています。P C 構造・P R C 構造そして鉄骨構造を自分のものとするために会員の参加を期待しています。

P C ・ プレファブ分科会は従来どおり、2 カ月に 1 回の例会を持っています、P C 構造・P R C 構造のほかに最近注目を集めているプレファブ構造(工業化工法)の検討にもウエイトを置くことを目的に、今年から P C ・ プレファブ分科会の主査を松谷(鴻池組)が退き、P C 構造の主査を徳永雄一郎氏(オリエンタル建設 TEL 372-0104)に、工業化工法の主査を土居健二氏(フードー建研 TEL 201-3737)にお願いすることになりました。

あたらしく参加希望の方は両主査にご連絡いただければ例会(同時開催)の日時をお知らせいたします。

(松谷輝雄)

日本建築学会大会(東北) 見てある記

株)日建設計 花島 晃

仙台駅から地下鉄とバスを乗り継いで約 40 分、今年の大会は新築間もない東北学院大学の泉キャンパスで開かれました。緑に恵まれた大変静かな所です。大会参加者 6000 人、講演 4300 題という市場最大の規模の学会だそうです。今年は学術講演会の主会場が一つの建物にまとまっているので移動が少くて済み、3 日間雨に降られた事もあり気になりませんでした。アトラクションとして、毎日昼休みに礼拝堂でバイオルガン演奏がありましたが、その礼拝堂で 2 日間最新の制御技術に関する構造の機能性安全性というテーマの研究協議会が開かれ今までにない会場でした。

1 日目の鋼構造の P D が「鋼構造架構形式の検証」というテーマで J S C A 主催としてもよいようなテーマで開かれましたので紹介します。最初に東京理科大の平野先生が鋼構造の潮流と現状ということで、鋼構造を分類すると低層がいかに多く小規模で居住用が多い、架構型式は、柱脚埋込みの角形鋼管柱ラーメンタイプが非常に多いという話をしました。

つづいて日建設計寺本氏、鹿島建設安達氏が主として超高層の架構の話をしました。最近は整形のものから個性の強い建築の時代になって架構も大型のものになったという社会的な環境の変化とそれに応える技術の進歩について話されました。最後に新日鐵岩田氏が資源有効利用のシステムフレームについて紹介がありました。その後会場から活発な意見が出て、最後に五十嵐先生が日本の構造技術者は建築家となれあいになってないか、耐震設計という隠れ裏の中にいてチャレンジしていないのではという耳の痛い話で P D が終りました。

株大林組 龜井 功

本年(1991 年)度日本建築学会大会(東北)に参加しましたので、今回大会に関し感じたことを思いつくままに記させて頂きます。

大会は台風接近の予想される中、9 月 12 日から 3 日間、仙台市郊外、清楚な風情の漂うミッショニ系東北学院大学教養学部泉キャンパスを主会場に、例年の通り、あわただしくかつ賑々しくかつ盛大に行なわれ、取り分け、中日の礼拝堂で

の構造部門研究協議会(主題「制御技術と構造の機能性・安全性」)などは、開会前に、自然現象を制御せんとする懸りない面々に対する洗礼よろしくバッハのオルガン演奏という趣向もみられました。

当協議会について言えば、主題の解説もさることながら、討論の際、一参加者の立場ながら中村恒善先生がご自信の「制約設計法」研究の考え方と成果についてご説明されたのは、主題を補うものとみられ筆者には印象に残るものありました。

尚、当協議会については討議を含め proceedings として学会より発行の予定のようです。

学術講演の内容についてもあれこれ言えるものではありませんが、研究発表のボリュームに関し、構造系講演題数は 1685 題で昨年(1651 題)を上回る過去最高であったこと、また、その中でも免震・制震関係の 180 題(原子力プラントの耐震含む)を別とすれば、筆者の見るところここ 2 、 3 年プレキャスト関係の研究が盛んになっている点を付して、概況のご報告と致します。

構造計画分科会活動報告

当分科会は発足以来1年半を経過し、登録メンバーも36名の大世帯となった。活動内容としては、各回毎にテーマを定めた研究会を4月以降3回、施工中の建物の見学会を2回行った。見学会の様子はメンバーにお願いして本紙で報告して

プレストレス・スチール構造の見学

(株)東畑建築事務所 近藤一雄

6月29日(土)午後に、大阪大学鈴木教授、大野助教授をお招きし、プレストレスト・スチール構造の現場見学会を開催しました。当建物は鶴鴻池組の設計施工による、スパン70m(負担巾22m)の機械工場で、屋根架構に張弦梁構造を、水平方向のスラストに対しては架構の両サイドに2列の柱を配し対処しています。

いる。6月には、支部定例研究会として「花博政府苑」の木造単層ラティスドームの実物試験の結果と解析についての報告会を当分科会の担当で開催した。

今回の活動として、関西以西の超高層建物のデータベース化と、その内特徴的

当日はPC緊張作業も見学出来るとの事で遠隔の地にもかかわらず、両先生をはじめ約30名が参加しました。

現場見学の後、鈴木先生にプレストレスト・スチール構造に関する講義をして頂き、貴重なご助言を賜わりました。

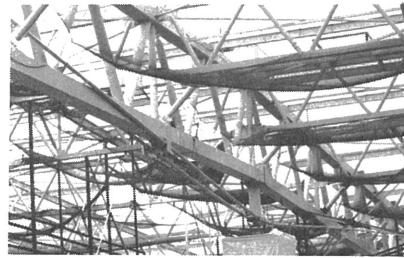
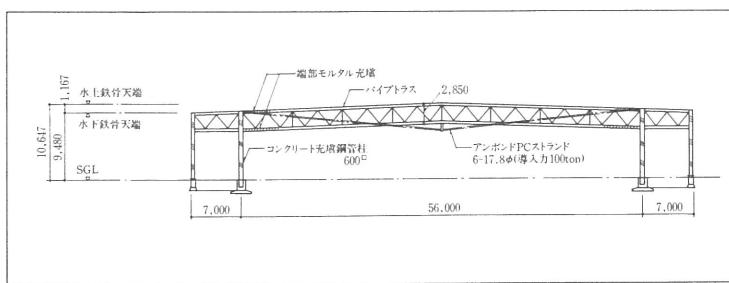
PCストランドをアウターケーブルとして使用すると、大臣認定が必要な為、当工場では断面算定に際しては、鋼管のみの耐力で設計し、プレストレスは撓み

な建物のシート化を中心に作業を行う予定である。これ以外にタイムリーなテーマや見学会を混えて息の長い活動を心掛けたいと考えている。

(主査 八木貞樹)

の制御だけとの事で残念に思いました。

近年要求が高まりつつある大空間構造の有効な手法として、この様な合成構造が発展すると思われます。施工時における各種計測結果について、報告して頂ける事をお願い致します。工事の最盛期にも拘らず見学を快く受け入れて下さった鶴鴻池組作業所の方々に心から感謝致します。



PCストランド部

N-6 計画Tビル見学記

(株)大林組 福本早苗

7月24日、第3回構造計画分科会見学会が、神戸大学の辻教授、河村助教授、大阪市役所の中島係長にご参加いただき開催された。表記建物は、中ノ島西部地区開発構想の1つとして、平成4年10月の竣工にむけて、建設中である。建築主、設計者、施工者の全てが、竹中工務店というふざわしく、様々な試みがなされた、地上22階、基準階が、57.6m×24.6mの事務所ビルである。

現場事務所内会議室にて、構造設計者の岡本課長、作業所長の織田所長より建物の概要についてのご説明を受けた。

品質、生産性、経済性の向上を目指し次の3つの工夫がなされている。

①超強度遠心成型鋼管コンクリート

柱-RUC柱-(□-600~850、
700φ~800φ)

②サイトプレファブフロアパネル

③TMDを用いた床制震装置

①RUC柱は、竹中工務店の10年来の研究開発の成果品である。昨今、鋼材とコンクリートの長所を生かし短所を補う合成構造の1つとして充てん形鋼管コンクリート柱が脚光を浴び始めているが、

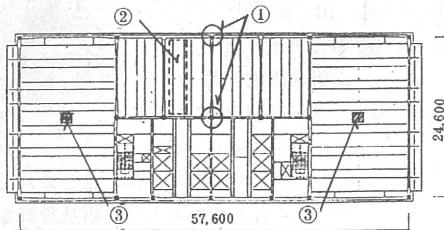
これは、工場において遠心力により締固め、オートクレーブ養生して製作されるため、コンクリートの高強度化、充てん性の向上といったテーマを一気に解決するものである。柱重量が、2t/mと重くなるため1節は2階分(15t)となるが、コストの低減、工期短縮が計れる。柱の現場溶接は、鋼管の溶接後、コンクリート部分には、きわめてフロー値の高い超強度モルタルが圧入される。梁フランジは、柱の通しダイヤフラムに現場溶接されるが、溶接のコンクリートに対する熱影響についても、実験により、安全性が確認されているとの事であった。

②この工法は、竹中工務店が、先行の2つの超高層ビル施工実績を踏まえて、現場作業における一層の省人化、機械化を推進したものである。現場から少し離れた所で、合成大梁とサイトプレファブパネルの製作が行なわれ、床スラブ、梁、先付設備ユニットが一体となったものが、現場に搬入され、吊り込まれる仕組である。さらに、パネルの種類をできる限り少なくするための工夫が、随所に見られ、設計者、施工者の意気込みが、ひしひしと伝わってきた。又“現場作業は、極力アセンブルに絞る”との所長のお言葉通り

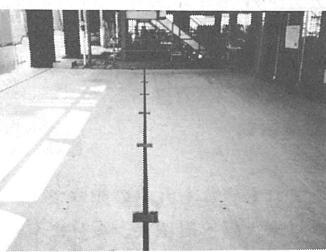
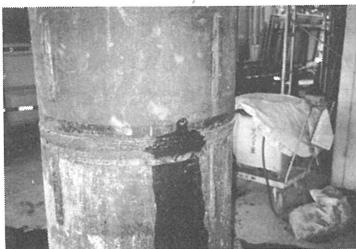
り、現場内は、実に整然としており、これなら“3K”的イメージも少しあは拭される感がした。

③14.4m×24.6mの1枚の版(1次振動数4.7Hz)としての振動を制御するために、中央にTMDが設置されている。これには、±1Hzの振動数の微調整のために板バネが合わせて設置されており、この制震装置によって、減衰定数が1%から7%に上昇し、同時に、2人歩行加振外乱による変位応答振幅も0.058mmから0.047mmに減少し、Meisterの振動感覚曲線のようやく感ずる程度に入れる事が確認されている。“この制震装置の採用によって、梁の鉄骨量の削減、梁成の低減が可能になった”との岡本課長のご説明であった。

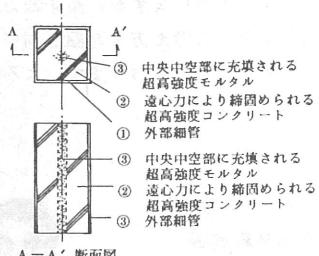
以上、設計計画段階からの、設計者、施工者、さらには協力会社の一体化に裏づけられた質の高い、効率的なゼネコンの設計ならではの建物であるという印象を強く受けた。又、一度、適用した工法を、実使用によって得られた問題点を積極的に改善する事により、はじめて実用的なハイレベルなものへと変身させていく事ができると言う“基本”を、改めて痛感させられた。



N-6 計画基準階床伏図

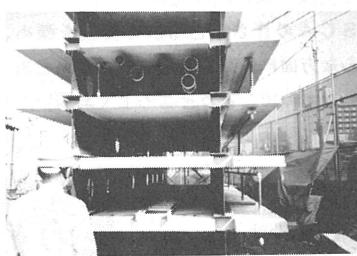


サイトプレファブプロアパネル



鋼管コンクリート柱 (RUC柱)

RUC柱超高強度モルタル圧入



サイトプレファブプロアパネル仮置状況

地震工学の特殊な概念の英訳に関する提言



「不思議な国のアリス」の物語の中で、マッド・ハントーがこのように行っている。
「私が1つの言葉を使う時、その言葉は私がその言葉を選んで表現しようとしたことを正確に表現している。」

適切な言葉を選ぶことは、自国語であってもしばしば困難なことである。この話は、キー・コンセプトを明快に英語に移し変える方法に関する控え目な提言であろう。

日本の耐震設計のコンセプトと法規は、西欧では今なお、充分に理解されていない。その主な理由の一つは、翻訳文献の不足である。使われている専門用語の大部分は、韌性、ベース・シアーやといった。研究者や技師の間ではありふれた用語であるが、日本の耐震設計手法で重要な一つでかつ独特な用語に明快な訳語がないのである。その用語は、いわゆる「二次設計検討」である。世界の耐震設計関係

の法規の中で、日本だけが2段階の応力検討を定めている。西欧では、限界設計が採用されつつあり、その中で日本のものとは異なる2段階の検討、すなわち、終局応力限界状態での検討及び使用限界での検討を行うようになりつつある。米国では、終局応力限界状態での検討は、LRFD方式として知られており、AIJの「鋼構造物の限界状態設計基準」案(1990年)においても同様の傾向が見られる。しかしながら、この極限状態の原理が日本において採用され、使われるようになるまでには、しばらくの時間がかかるであろうし、それまでは依然として問題は残る。その問題とは、「二次設計」と「保有水平耐力」という関連用語を英語でどのように表現すべきか、という事である。

「二次設計」と「終局限界状態」、「保有水平耐力」と「終局強度」といった用語は、鉄骨梁の塑性曲げ破壊といった特殊なケースについて特定の数式により定義されているが、一般にはこれらの

ジョン・パチャラー (アラップジャパンリミテッド)

定義は規準によって異なる。従って、容易に誤訳されない中庸の響きのある訳語を選ぶことが重要である。

また、高層建築物及び特別な認可が必要なその他の建築物に適用される動的解析では、2段階の地震入力レベルに対応する2種類の設計クライティアとして「レベル1」と「レベル2」という用語を用いている。この設計プロセスは、日本の建築基準法に定める通常の設計方法とは異なるので、我々外国人は、この二つを容易に混同し、「レベル2の地震での検討」は、より一般的な「二次設計」同等のものであると考えてしまう。

従って、混乱を避けるために、以下の訳語を提案する。

一次設計=first phase design

二次設計=second phase design

レベル1 2 地震=level (1) 2 earthquake
(動的解析の際に限る)

保有耐力=retained lateral strength
(ultimate strength等との
区別を明快に守る)

●支部の動き

- 5/10 支部総会 出席36名、委任状147通、於建設交流館
- 5/10 定例研究会 「建築鉄骨の柱・梁仕口部に関する諸問題について」JIA JSKAジョイントP.D 参加者86名
- 5/10 懇親会 参加者61名
- 5/14 広報委員会
- 5/13 支部役員会
- 5/31 総会準備特別委員会
- 6/12 資格認定制度検討特別委員会

- 6/24 技術委員会
- 6/27 定例研究会「木造单層ラチスドームの実物実験と解析—花博政府苑(自然科学棟)一於大阪私立大学文化交流センター
- 7/5 P.D「建築構造士」資格認定制度(案)について於西本町インテス
- 8/7 広報委員会
- 9/25 総会準備特別委員会
- 10/2 事業委員会
- 10/23 技術委員会

- 分科会活動
- P.C 4/22、8/5、9/30
構造計画 4/23、5/14、6/11、
6/29、7/24、10/17
コンピュータ 5/22、7/25、9/25
鉄骨 7/19
基礎 4/9、6/11、8/5、10/2
耐震設計 5/21、7/23、9/24
- 5/21 ゴルフ同好会 於伏尾G.C

会員紹介

井 上 繁

◎株式会社 設計部

囲碁・将棋・音楽・

野球観戦



生まれも育ちも九州の熊本です。大学卒業以来大阪へ出稼ぎ、多分にもれず、58年から2年半程東京での単身赴任を経験し大阪へ舞い戻り現在に至っています。J S C Aの皆さんとも広く交友を深め、色々な方面に興味を持っていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひします。

西 田 理

◎株式会社 日建設計



入社して17年になるが、この間に建物の設計に大きな変化をもたらしたのはいうまでもなく新耐震設計法である。これを契機に一貫プログラムの普及が一気に進んだような気がする。新耐震より10年となり、今後プログラム自体はより使い易いものが開発されて来るであろうが誰が入れても……とは簡単にはなるまい。

山 口 佳 子

◎株式会社 竹中工務店

大阪本店設計部

○旅行・読書・観劇



飛行機が大阪上空にさしかかると最初に城が目に入る。次に高層ビル群、ああ大阪に帰って来たと感じる。そんな時ランドマークが欲しいと思う。ユニークで優美なデザインのタワービルがいい。トップラウンジや橋の上から遠望出来て、シリエットや夕日に染まる姿が絵になる街をつくる。こんなことを考えています。

清 孝 好

◎株式会社 日建設計

KIA設計監理室



数年前に机上のワーク中心の構造部からより現場的な監理室に移り、構造技術というより施工・意匠・設備を含め建物全般にかかわることが多くなりました。基礎委員会を中心に構造の情報からあまり遠ざからないようにと思っています。

矢 田 貞 隆 夫

◎株式会社 大林組建築設計

第6部

○散策・囲碁・読書



片 山 文 士

◎株式会社 竹中工務店

大阪本店設計部

○スポーツ観戦(アメフト)

ゴルフ・スキー・旅行etc.



「人に対して誠実であれ、自分に対しても忠実であれ」をモットーに構造設計を志す30代です。J S C Aの中では最若年層に属すると思いますが、諸先輩方の構造設計に対する考え方・お話を伺い、視野を広めたく考えております。よろしく御指導下さい。

玉 井 憲 雄

◎株式会社 大阪支社

建築支店設計部

○山散策・古寺見学・茶



亀 井 功

◎株式会社 大林組本店

建築設計第7部

○囲碁



建設業界の3K問題も根は深いのですが我々構造設計業界もその3Kイメージに因る(だけでもないが)構造技術系志望者絶対数の落ち込みという産官学に係わると見られる構造的問題を抱えている。その3Kとは、きそくだらけ、きかい的、きまじめ過ぎる。

前 野 敏 元

◎株式会社 竹中工務店

大阪本店設計部

○ゴルフを始めました。



戸 田 義 博

◎株式会社 大林組建築設計 第6部

○魚釣り・園芸・ゴルフは

少々



最近協会も本格的な活動をされるようになり、心強く感じております。

この協会が、構造技術者の拠所としてより刺激的で魅力ある発展を遂げるためにもできるだけ若手中心の活動の場になればと思っています。

●事務局からのお知らせ

- ・講習会「やさしい鉄骨監理」と「はじめてのP C・P R C構造」を12/5に建設交流館で開催します。詳細は後日
- ・全国の総会が来年6月5日に京都市国際交流会館で開催されます。併せて支部総会も開催します。当支部では準備特別委員会を発足させて対応中です。支部会員の皆様のご協力をお願い致します。
- ・建築関係団体の催し、来年12/13に太閤園にて忘年会。青年1/6にマイドーム大阪にて合同新年交礼会。

●編集後記

本号は去る7月に開催された「建築構造士」資格認定制度のパネルディスカッションに参加された諸氏より寄稿いただき、紙面にその模様を再現致しました。本制度に対する会員諸氏への御理解の一助になれば幸いと思います。又、分科会活動報告、学会見てある記、ならびにジョン・バチャラー氏からの貴重な提言などいただき、いつもながら当会誌は、会員はもとより、広く会員外の方々にも支えられている事を痛感させられます。

(岡本・平野担当)